

平成 22 年 11 月 8 日

## 為替動向から世界の鉄スクラップ相場を考える

### 鉄スクラップ貿易と為替

昨年の米・鉄スクラップ輸出は 2,244 万トンで世界最大の輸出国。中国、韓国、台湾（3カ国合計 1,155 万トン）などアジア輸出は日本（昨年輸出 940 万トン）と、トルコなど大西洋岸輸出は EU（昨年トルコ向け輸出 742 万トン）と競合。米国、EU、日本の貿易は「品代＝CFR」と同時に為替動向に左右される。

### 米国コンポジット価格

米国東部 3 都市（内陸部のシカゴ、ピッツバーグ。湾岸のフィラデルフィア）の No.1 ヘビー価格平均で、米国鉄スクラップの「体温計」として相場動向の参考にする関係者が多い。最近の特徴は内陸 2 都市と輸出港を持つ湾岸市の変化、格差が大きいこと。内陸市は「内需不振と発生後退」要因に湾岸市は「外需拡大と為替」要因に影響される。

### 為替要因と鉄スクラップ競争力

日本は言わずと知れた 15 年ぶりの円高状況に直面している。EU はギリシャショックを発端に 4 月末以降、6 月にかけてユーロは急落した。その同じ 5 月末、韓国でも哨戒艦事件を巡って北朝鮮との地政学的リスクからウォン安が一気に進んだ。この中で EU 諸国はユーロ安を背景に大西洋側で鉄スクラップの輸出競争力を強めた（6 月コンポジット価格下落）。世界は二番底リスク回避の国家エゴから「通貨切り下げ」競争に走った。米国ドルは 9 月以降、円だけでなく対ユーロやウォンでも下落。ドル「独歩安」を追い風にして、今後は米国の鉄スクラップ輸出競争力は強化される可能性が浮上してきた。一方、日本の鉄スクラップ輸出競争力は円高が進めば進むほど縮減される。

【日刊市況通信 平成 22 年 10 月 26 日掲載】